

## 地域再生計画

### 1 地域再生計画の名称

「しごとが生まれ育ち、人が集まるまち笠岡」地域産業魅力づくり計画

### 2 地域再生計画の作成主体の名称

笠岡市

### 3 地域再生計画の区域

笠岡市の全域

### 4 地域再生計画の目標

#### 4-1 地方創生の実現における構造的な課題

「笠岡市人口ビジョン（H27.8策定）」における平成23～25年の3年間の年齢区分別人口移動人数を見ると、15歳から39歳までの生産年齢前期の人口の流出が顕著となっており、生産年齢前期の人口の転入転出の差引増減は、△795人であり、他の年齢層を含めた△733人を上回っている状況にある。このことから、15～39歳の若年層をいかに確保していくかが構造的な課題となっている。

また、生産年齢前期の人口の男女別人口の推移を見ると、男性より女性の流出傾向が高く、流入数も男性が高く、女性が低い状況にあることが分かった。その理由として、高校卒業後に市外、県外の大学等に進学し、大学卒業後の就職先として、地元でUターンする若者が少ないこと、また、特に大学生に対して魅力のある就職先が少ないことが原因であると分析している。若者の数が減少傾向にあることが構造的な課題となっている。

オンリーワンの技術や全国でナンバーワンのシェアを有する優良な中小企業がありますが、最終製品を製造しておらず、会社の知名度が低い状況です。そのため、大学生の優秀な人材を確保できないという構造的な問題があります。

笠岡市の高齢化率は、平成29年9月末現在で34.7%となっており、団塊の世代が75歳以上となる2025年（平成37年）には、36.8%になると予想しており（笠岡市ゲンキプラン）、少子高齢化、人口減少による人材不足は構造的な課題となっている。将来にわたって地域経済を維持していくためには、生産年齢人口を増加させ、労働力を確保していくことが必要です。

笠岡市には、製造業を中心とした中小企業が集積しており、市民生活を支

え雇用の場を作り出し、地域経済を牽引しています。しかし、工業統計調査によると、事業所数は、平成16年の159事業所から平成26年には、122事業所と減少し、従業者数は、平成16年の5,954人から、平成26年の5,250人と減少が著しく、地域の雇用の場が失われているという構造的な問題があります。

平成28年に笠岡商工会議所が実施した市内321事業所からの事業承継のアンケートによると、24.6%の事業所が「承継しない」と回答しています。理由として、「事業を継続しても経営は厳しいので、他の有望な仕事に子供はつかせたい」「発展が望めず、後継者が生活していけないから」「事業の将来性がないから」となっており、今後さらに廃業が増加すると予想されます。後継者不在による廃業を防がなければなりません。

RESASによると、笠岡市の創業率は0.98%と全国の1.84%に比べて低い状況になっており、新たな仕事を生み出し、地域産業の新陳代謝を図る必要があります。

全国で「笠岡」という知名度は低く、ブランド力がないという構造的な問題があります。

笠岡市は、瀬戸内海の温暖な気候で、様々な歴史文化を育んだ有人7島の笠岡諸島がありますが、その魅力を外部に発信することができず、なかなか観光客を誘客することができていません。笠岡市には、年間85万人が訪れる道の駅「笠岡ベイファーム」という地域資源があるので、そこに訪れた人を笠岡市内はもとより、笠岡諸島への誘客へ繋いでいかなければなりません。

また、笠岡諸島の白石島、北木島、真鍋島等一部の島では、夏の海水浴シーズンには、誘客が図れていますが、1年間を通じて笠岡諸島に誘客を図ることができないため、旅館、飲食店等の観光産業が衰退しているという構造的な問題があります。

#### 4-2 地方創生として目指す将来像

笠岡市は、岡山県南西端に位置し、人口50,159人（H28.9.30現在）、高齢化率34.7%の地方都市である。笠岡市は、平成25年日本創生会議が公表した「消滅可能性都市」に含まれており、若者を中心とする人口の市外流出等により、5年間で市の総人口の6.7%にあたる3,672人が減少（H27年国調速報値）する深刻な状況です。

笠岡市の事業所数は、平成21年の2,407事業所（平成21年経済センサス基礎調査）から平成24年の2,137事業所（平成24年経済センサス活動調査）と11%減少し、従業員数も21,700人から20,646人と減少し、雇用の場が少

なくなっています。

このため、平成 26 年 3 月に笠岡市産業振興ビジョンを策定し、「企業誘致（外発的産業振興）」「地元中小企業の振興・起業支援（内発的産業振興）」「観光振興（交流による経済活性化）」を産業振興施策の 3 つの柱にして、年次の計画的に産業振興に取り組んでいます。

広大な笠岡湾干拓地の畑に四季の花が咲き乱れる道の駅「笠岡ベイファーム」には、年間 85 万人の観光客が訪れます。その観光客を市内の陸地部や笠岡諸島に誘客することによって、点から面への観光を展開します。年間を通じた観光客を誘客することにより、観光産業の創出を図り、新たな雇用の創出を目指します。

笠岡市の地域資源を発掘し、認知度の向上を図る「かさおかブランド」の観光部門、食品部門、技術・伝統・産業部門のブランド力を強化し、交流人口を増加させるとともに、首都圏・海外への販路開拓を図り、販売力の向上による中小企業の活性化を図り、新たな雇用に創出し、地域経済の振興を目指します。

#### 【数値目標】

	事業開始前 (現時点)	平成29年度 増加分 (1年目)	平成30年度 増加分 (2年目)	平成31年度 増加分 (3年目)	KPI増加分 の累計
ハローワーク 笠岡管内の有 効求人倍率(倍 )	1.57	0.05	0.05	0.05	0.15
製造業におけ る事業所数(工 業統計調査)( 事業所)	122	1	2	2	5
新規起業・第2 創業件数(件)	17	20	23	26	69
年間観光客入 込人数(千人)	1,291.6	2.6	2.6	2.6	7.8

## 5 地域再生を図るために行う事業

## 5-1 全体の概要

高い技術や独自の製品を持つ地元中小企業が存在するにも関わらず、知名度が低いことから大学生の雇用の確保に繋がらない状況を打開するため、大学生のインターシップを活用し、学生目線のPR・情報発信を行うかさおか中小企業「魅力」発信事業、市内中小企業への新規学卒者を促す新規学卒者雇用奨励金、高校生のモノづくり企業へのインターンシップ体験、中学生に高校生がモノづくりを教えるモノづくり出前教室支援等を通じて15～39歳の生産年齢前期の若者が中小企業に就職し、市内の定着を促します。

ビジネス経験が豊富な企業コーディネーターを配置し、市内の中小企業を訪問し、新たな事業展開やマッチングの支援や、市内の中小企業が経営課題や技術課題の解決能力を学ぶ研修支援や、売り上げを増やすため、パブリシティを利用した広報戦略を考え、販路開拓に繋げるセミナーの開催や、親子間以外での事業承継やM&AやMBOによって事業承継する個人や法人に対して、事業承継を契機として新たな事業展開を支援します。そして、創業希望者を掘り起こし、起業家に対する支援体制を整え、地域産業の新陳代謝を促進します。それらの支援を通じて、厳しい経営環境の中でも売り上げを伸ばし、事業を拡大することができるよう支援します。

市民組織である「かさおかブランド協議会」を支援し、地域資源の発掘、認知度の向上などブランド力の向上を図り、地域のイメージアップ、付加価値の高い商品・サービスを展開します。また、地域資源である風光明媚な笠岡諸島の豊かな自然環境や全国2番目の広さを誇る笠岡湾干拓地の景観や道の駅笠岡ベイファームを、「線」ではなく、「面」で繋ぎ、年間を通じた誘客を図ることにより観光産業を育成します。

## 5-2 第5章の特別の措置を適用して行う事業

地方創生推進交付金（内閣府）：【A3007】

### ① 事業主体

笠岡市

### ② 事業の名称：「しごとが生まれ育ち、人が集まるまち笠岡」地域産業魅力づくり事業

### ③ 事業の内容

#### ○笠岡若者定着支援事業

15～39歳の生産年齢前期の若者が市内の中小企業に就職し、市内に定着できるよう各種事業を実施する。

- ・かさおか中小企業「魅力」発信事業

高い技術や独自の製品を持つ地元中小企業が存在するにも関わらず、知名度が低いことから大学生の雇用の確保に繋がらない状況を打開するため、大学生のインターシップを活用し、学生目線のPR・情報発信を行います。

- ・新規学卒者雇用奨励金

市内の15～39歳の若年層を確保し、笠岡市内の若者を定着させるため市内の企業へ就職を促進する必要があります。笠岡市民や市外から転入してきた新規学卒者を採用した地元中小企業者を支援します。

- ・高校生長期インターンシップ

笠岡工業高校と笠岡商業高校は、地元の中小企業への就職率が高い傾向にあります。また、就職後3年間の離職率が高い傾向にあります。これを解消するため、将来就職を希望する市内のモノづくり企業で、工業高校や商業高校の2年生が5日間の就業体験を実施します。

- ・モノづくり出前教室支援補助金

モノづくりの楽しさに中学生の頃から触れ、義務教育の時期から地域の産業人材を育成するための体験の必要があります。県立笠岡工業高校の生徒が市内の中学校に出向き、はんだごてを使用して電子回路の作成等を中学生に教え、モノづくりの楽しさを伝えます。その出前教室の経費の一部を支援します。

- 笠岡中小企業イノベーション展開事業

市内の中小企業が、厳しい経営環境の中でも売り上げを伸ばし、事業を拡大することができるよう各種事業を実施するとともに、新たな起業に対して支援することで、地域経済の新陳代謝を図る。

- ・企業コーディネーター配置事業、臨時職員賃金

中小企業の振興を図るためには、企業の抱える課題を洗い出し、解決するための支援を行う必要があります。そのため、ビジネス経験が豊富な企業コーディネーターを配置し、中小企業を訪問し、新たな事業展開やマッチングなどの支援を行います。

- ・経営セミナー事業委託料

中小企業が売り上げを増やすための、パブリシティを利用した広報戦略を考え、販路開拓に繋げるセミナーを開催する。

- ・起業支援事業補助金

地元中小企業の新陳代謝を促進し、地域経済を活性化するため、やる気のある新規の起業を促し、イノベーションを起こさなければいけません。さらに、事業の拡大により新たな雇用が創出されます。市内で新規に起業する個人に対して、補助金を交付する。

- ・創業塾支援事業

笠岡商工会議所が開催する「かさおか創業塾」に対して補助金を交付する。

- ・中小企業人材育成支援事業補助金

中小企業の経営力の強化を図るためには、有能な人材の確保が重要です。そのため、経営者を対象として、売上に繋がる広報・販路開拓を実践的に習得できるなどの経営セミナーの開催や、従業員を対象として経営課題や技術課題の解決能力を学ぶ研修等の人材育成事業により、競争力強化の支援を行います。

- ・地域産業魅力づくり応援補助金（中小企業者等商品開発・販路開拓等応援）

中小企業者の新たな事業展開を応援し、競争力を高めていくために、新技術・新商品に係る研究開発、販路開拓、観光商品の開発等を行うものを支援する。

特に、付加価値の向上やローカルコンテンツ比率向上が期待できる地域ブランドに係る取組に対しては積極的に支援します。

- ・事業承継事業補助金

現在の中小企業の経営者は高齢化しており、廃業する中小企業者が増加すると予測されます。地域経済を支え、地域の雇用を支えている中小企業の減少を食い止めるため、早期に後継者を育成し、会社の経営資産を継承し、事業を継続させる必要があります。親子間以外での事業承継や M&A や MBO によって事業承継する個人や法人に対して、事業承継を契機として新たな事業展開を支援します。

- 笠岡観光産業育成事業

本市の購買力を維持拡大するため、市内の消費拡大のみならず、市外からの交流人口の増大を図らなければなりません。市内外から獲得したお金を地域経済に供給し循環させることにより、全体として地域経済の活性化に繋げることが重要です。そのためには、地域資源である風光明媚な笠岡諸島の豊かな自然環境や全国 2 番目の広さを誇る笠岡湾干拓地の景観を「線」ではなく、「面」で繋ぎ、年間を通じた誘客を図り観光産業を育成します。

- ・観光コーディネーター配置事業

交流人口の拡大を図るため、専任の観光コーディネーターを配置し、総合的な観光振興施策を展開し、地域ブランド化の取組や地元製品の PR などにより、外貨獲得による地域産業の活性化を推進します。

- ・笠岡ぐるっと博事業

おいしい食事は観光客にとって旅の楽しみの一つです。地域の食材を使った料理を提供する飲食店や笠岡でしか食べることができない料理を提供する飲食店を観光客にめぐってもらおうスタンプラリーを開催します。

- ・ 市民アンケート調査委託料  
観光客の観光目的等、今後の観光振興の参考にするため市民アンケートを実施する。
- ・ かさおかブランド育成事業  
地域ブランドの本質を理解し実行する市民組織「かさおかブランド協議会」を支援し、協議会の活動を通して、ブランドの再定義、地域資源の発掘、認知度の向上など、ブランド力の向上を図ります。他地域に誇れる地域資源を「観光部門」「食品部門」「技術・伝統・産業部門」において、それぞれ募集・認定し、販路開拓などについて支援します。また、食品部門の商品等は、年間 85 万人が訪れる道の駅「笠岡ベイファーム」で PR、販売します。これにより、地域のイメージアップ、付加価値の高い商品・サービスの展開、ひいては地域産業の発展に繋がります。
- ・ 道の駅発着無料巡回バス運行事業  
年間 85 万人が訪れる道の駅「笠岡ベイファーム」ですが、市内の他の観光地や笠岡諸島への訪問につながっていません。この問題を解決するため、道の駅を訪問する観光客を市内の別の観光地に誘導するため、無料の巡回バスを運行する。
- ・ 離島観光活性化補助金  
笠岡諸島のツアーを実施するエージェンツに対して補助金を交付する。
- ・ ラーメンのまち笠岡マップ作成事業補助金  
昔から愛されている鶏がら醤油スープに鶏チャーシューの「笠岡ラーメン」を中心として、市内に多く存在するラーメン店を紹介するマップを作成し、ラーメン愛好家はもとより、観光客への誘客を図る。
- ・ 道の駅花いっぱい事業  
地域における購買力を高めるためには、観光客の誘致を進め、交流人口の拡大を図る必要があります。そのため、市内の中心的な観光拠点となっている道の駅「笠岡ベイファーム」に誘客を図るため、隣接の広大な農地に四季折々の花を咲かせます。これにより、地域ブランド品をはじめ地元商品の販売促進を図ります。
- ・ DC 報償費（アンケート）  
ディステーションキャンペーン関連事業についての効果の検証をアンケート形式で行う。

#### ④ 事業が先導的であると認められる理由

##### 【自立性】

かさおかブランドの認定による販路拡大により、事業者の売り上げ

の増加や交流人口の増加による税収の増加が見込めます。さらには、売り上げ拡大による新規設備投資により、金融機関の融資が見込めます。

**【官民協働】**

民間の投資・事業に係る経費の一部について、行政が支援することにより、取組の促進を図ります。

ワンストップ窓口として、相談、支援体制を整備します。

地域製品の販売拠点への集客促進を行います。

**【政策間連携】**

市外，県外からの交流人口の拡大による，観光を産業化につなげるよう地域の産業振興を行います。

**【地域間連携】**

現在国が推進している連携中枢都市圏である，福山市を中心とする備後圏域と倉敷市を中心とする高梁川流域との連携により，広域的に産業振興，観光振興に努めていきます。

**【その他の先導性】**

特になし

**⑤ 重要業績評価指標（KPI）及び目標年月**

**【数値目標】**

	事業開始前 (現時点)	平成29年度 増加分 (1年目)	平成30年度 増加分 (2年目)	平成31年度 増加分 (3年目)	KPI増加分 の累計
ハローワーク笠岡管内の有効求人倍率(倍)	1.57	0.05	0.05	0.05	0.15
製造業における事業所数(工業統計調査)(事業所)	122	1	2	2	5



新規起業・第2創業件数(件)	17	20	23	26	69
年間観光客入込人数(千人)	1,291.6	2.6	2.6	2.6	7.8

⑥ 評価の方法、時期及び体制

【検証方法】

有識者等で構成する笠岡市施策評価委員会において、評価・検証する。

【外部組織の参画者】

大学教員2名(マーケティング, 新商品開発), 社会教育委員会, 青年会議所

【検証結果の公表の方法】

笠岡市ホームページで公表する。

⑦ 交付対象事業に要する経費

・第5条第4項第1号イに関する事業【A3007】

総事業費 253,249千円

⑧ 事業実施期間

地域再生計画認定の日から平32年3月31日(3ヵ年度)

⑨ その他必要な事項

特になし

5-3 その他の事業

5-3-1 地域再生基本方針に基づく支援措置

該当なし

5-3-2 支援措置によらない独自の取組

該当なし

6 計画期間

地域再生計画認定の日から平成32年3月31日

## 7 目標の達成状況に係る評価に関する事項

### 7-1 目標の達成状況にかかる評価の手法

#### 【検証方法】

有識者等で構成する笠岡市施策評価委員会において、評価・検証する。

#### 【外部組織の参画者】

大学教員2名（マーケティング，新商品開発），社会教育委員会，青年会議所

### 7-2 目標の達成状況にかかる評価の時期及び評価を行う内容

有識者等で構成する笠岡市施策評価委員会において、毎年度末時点で評価・検証する。

#### 【数値目標】

	事業開始前 (現時点)	平成29年度 増加分 (1年目)	平成30年度 増加分 (2年目)	平成31年度 増加分 (3年目)	KPI増加分 の累計
ハローワーク笠岡 管内の有効求人倍 率(倍)	1.57	0.05	0.05	0.05	0.15
製造業における事 業所数(工業統計 調査)(事業所)	122	1	2	2	5
新規起業・第2創 業件数(件)	17	20	23	26	69
年間観光客入込人 数(千人)	1,291.6	2.6	2.6	2.6	7.8

### 7-3 目標の達成状況にかかる評価の公表の手法

笠岡市施策評価委員会では毎年度末時点の評価を行い、ホームページで公表する。